

出前市長室提言受付記録簿(6月27日開設)

No.	提言者者		ご提言内容	応対	関係部局
	男・女	地域			
1	男	平	<p>「五箇山和紙の活性化について」 伝統産業として守っていくために、原料である楮の畑作業にも力を入れていきたい。後継者を確保する上でも、雇用増が必要と考えるが、費用の面から難しい。 また、下梨の紙漉き工場について、老朽化も著しいが、地盤沈下による建物の傾きが発生しているとみられ、入り口付近に隙間ができ、危険な状態。建替えの余裕などなく、困っている。伝統工芸の振興という予算枠を設けてもらえないか。</p>	<p>和紙は平地域の伝統工芸として大変大切なものであると認識しており、これを次世代に引き継いでいくことは重要な課題としてとらえている。 原料の調達をどうするか、というのは商売すべてにおいて言えることであるが、将来に向けて地域で守り育てていくために、地域内の他の和紙関連施設と協力して、全体の収穫量に基づく楮畑の計画を立てたり、担い手の確保や施設の修繕、栽培投資についても、どのように進めていくか、それぞれの特色を生かした、共存していくためのすみわけをどうしていくか、ということを含めて考えていただく必要があるのではないかと感じている。 小中学校の卒業証書のように、これまで以上に、自助努力による売上げ増を図っていただくことはもちろん、担い手確保等に関して、店舗や企業に対してのいろいろな助成制度の中に当てはまるものがないか、具体的な相談には応じたい。 設備投資に関する補助金についてはあると思うが、高度な技術を生かして、例えば、外部のデザイナーや企業とタイアップした商品開発の道筋ができれば、設備投資の心配がなくなる、という方法もあるかもしれない。 全国各市との連携により、伝統工芸士の作品として広めていくなどにも力を入れて行っていきたいと考えており、お互いに知恵を出し合ってやっていきたい。</p>	産業経済部
2	男	平	<p>「和紙の原料の栽培に係る労働力の確保と助成について」 十数年前から、大学生のインターンシップの受入れを行っている。食事と宿の提供が必要であるが、無賃金での労力奉仕を受けることができ、学生はそのことで学校の単位取得に繋がるというもの。例年、3人の学生が約2週間滞在する。とても助かっているが、草刈り作業に労力のかかるのは6月～9月である。さらに最近では、農業をやりたいという若い女性も多いことから、グリーンツーリズムを併せた形での呼び込みを行うなど、行政側の協力を期待したい。 また、楮栽培について農産物としての助成等があればお願いしたい。</p>	<p>楮が農産物であるならば、対象となる補助金は見込める可能性が高いと思われる。 労働力の確保について、一人ひとりが雇用した場合は人件費が高くなり、結果、材料費が高くなってしまふ。平地域の中で、何人かのグループでこれらの管理を行うという方法はできないものか。 体験事業はとても大事なことだが、その度に連れて行って教えるという手間がかかり、結構大変なことだと思う。例えば1年程度の長い期間でやってもらうことができれば、労働力として見込むことができるかもしれない。 世界遺産のマスタープランからアクションプランに移っていく時に、合掌造りに不可欠な要素である、人と茅と木材と和紙と土壁と水、これらを保全の部分で結びつけて考えていけば、和紙の原料である楮の栽培に関しても、将来に向けて長く続けていける事業として、行政としても計画性をもって取り組むことが可能となるのではないかと考える。</p>	産業経済部 教育委員会

出前市長室提言受付記録簿(6月27日開設)

No.	提言者者		ご提言内容	応対	関係部局
	男・女	地域			
3	女	平	<p>「観光産業について」</p> <p>高齢者が過半数を超える現状を逆手にとって、若い人に頼らず、高齢者だからこその、昔ながらの知恵・知識を、観光や産業で生かすことはできないか。</p> <p>どこにでもあるような作られた資料館ではなく、紙漉きや藁仕事、蚕、ひき臼、織物、炭焼きなど、かつて五箇山地域で行われていた手仕事を高齢者の方々に実演してもらうことで、五箇山らしさを見学できる、他にはない、生きた資料館として観光客を呼び込めるのではないか。</p> <p>空き家の有効活用や、特産品の生産、さらには高齢者の認知症予防にも繋がる。</p> <p>また、このことにより、大切な地域の伝統文化を次の若い世代に継承していくことができる。</p>	<p>紙漉きや蚕、炭焼きなどは、見せ物としてだけでやれるものではなく、それらをどうやって商品化していくかを考えると、それぞれの分野に精通した人材が必要であり、高齢者だけに限らない。</p> <p>どこの家庭にでも言えることだが、それらの伝統文化の技が引き継がれていないのが現状。普段の生活の中で、姑から嫁、子から孫へのリレーがしっかりできるような本来の形にしていくことが一番大事であり、その上で、観光産業をどうやって結びつけていくか、という順序だと考えている。</p> <p>また、例えば、合掌造りで超一流シェフが作るイタリアンやフレンチというのはもちろん素晴らしいが、地元の方が作る郷土料理も、負けずに最高のごちそうであったりする。また、歴史の語りべや資料館は、歴史を知る上で必要な観光施設であったり、という風に、マッチングさせることも重要であり、その中での伝統文化は必要不可欠である。</p> <p>それらのことから、南砺市、そして特に五箇山地域では、三世代同居の推奨をしていきたいと考えている。三世代同居は一人一人のライフスタイルを制約するというイメージを持たれるが、家族みんなで相談しあいながら、子育てを考えながら、介護をしながら、生活をするという、本来当たり前の姿であり、昔ながらの家の構造を生かして、今どきのライフスタイルも取り入れながら、自然に居間に皆が集まってくるような、そういう暮らしこそが目指すべき観光ではないか。</p> <p>観光客のために敢えて手仕事を見せてもわざとらしく映ってしまうだろう。そうではなく、そこに本当の昔ながらの生活があるから、いい観光地となっていくのではないか。</p> <p>日常を見にきて、そこで生活をして、その暮らしの中で会話が繋がったり、地元の人と話をすることが、この地域の魅力であり、今後に繋げていきたい。</p>	産業経済部

出前市長室提言受付記録簿(6月27日開設)

No.	提言者者		ご提言内容	対応	関係部局
	男・女	地域			
4	女	平	<p>「地域医療について」 地域医療マイスター養成講座を受けて、行政・住民・医師(診療所)の三本柱で地域を盛り上げることの重要性を学んだが、独居老人が増加している中で、高齢者が安心して最期まで過ごすことのできるように、また、若い人たちが不安なく安心して暮らすことができるようにするために、もっと地域に根ざした医療体制の充実を図る必要がある。</p>	<p>南砺市の医療の進むべき方向性として、地域包括医療ケアというものがあり、医療と福祉と保健、それらがタイアップして、一人一人のケアを考えるという仕組み作りを進めている。 南砺市は現在も”みとり”のできるまちであり、件数は少しずつ増加傾向にある。 地域の方々をも巻き込んだ、配食サービスや声掛けなどの生活支援を併せて、その人その人に合わせたケアプランを作成できるようにしていかなければならない。基本は在宅介護で考えているので、結果、最終的には”みとり”に繋がる。 在宅介護でも無理なくやっていけるということを示すことのできるような体制を目指しており、おっしゃる方向に少しずつ進んでいるということをご理解願いたい。 また、この地域でも、富山型デイサービスのような施設が必要とされているのかもしれない。市内には、現在5箇所ほどあるが、中学校下に一つ以上あって欲しい施設であり、地域の皆が気軽に寄って、声掛け合って、子どもたちの放課後児童保育も一緒にやれるような、そんな場所が望ましい。補助金も助成金もあるので、個人やグループで是非、立ち上げて欲しい。</p>	地域包括医療・ケア局
5	女	平	<p>「上梨白山宮の御開帳について」 33年毎の御開帳を6年後に迎えるということで、上梨地区の方々だけで何とかしようとしておられるが、聞いたところでは、昔は四国から新しい鳥居を運んだりされたなど、ものすごくご苦労されているらしく、このすばらしい行事を、観光という観点から、市で補助金等の手助けができないものか。28年前の今回は、平村として祝賀会が催されたと聞く。</p>	<p>井波の高瀬神社を例にすると、神社への補助金等というのはいないのではないかとと思う。 ただ、観光や、その期間中の周辺への影響等で、行政としてやらなければならないこともでてくるかもしれない。</p>	産業経済部
6	女	平	<p>「相倉のブランド米について」 相倉の棚田で作っておられる米の品種をもち米にして、福光地域の米菓の会社と提携して、「世界遺産せんべい」を作るなどの試みがあってもよいのではないか。</p>	<p>世界遺産米も大変人気があるが、とてもよい案だと思う。市内の米菓の会社といろいろ作ってみるのもいいかもしれない。相倉財団等の関係者に期待する。</p>	産業経済部

出前市長室提言受付記録簿(6月27日開設)

No.	提言者者		ご提言内容	応対	関係部局
	男・女	地域			
7	男	平	<p>「空き家対策について」</p> <p>春から籠渡・相倉へ3世帯が入居し、壮年会の会員が増え、また、子どもの数も増え、地域の活性化を感じている。</p> <p>住んでみて初めてわかる良さがあると思うが、仕事の関係等で長続きしないケースも多いのではないかと。空き家に入る前のワンクッションとして、少し長めの生活体験ができる機会として、トライアル期間があればよいのではないかと。</p>	<p>空き家の利用をどうするかということは、大変重要な問題である。現在、空き家の情報を集めて、空き家条例の制定や居住希望者とのマッチングをしようと進めているが、ネックとなるのは個人の所有物であるということ。</p> <p>かつて、空き家になる時点で、その後の管理について、地域の方に一任するというような、そんな時期も一部の地域であったようだが、そのような制度を作ることが可能であれば、うまく進められる気がする。</p> <p>大きな一軒家を借りてシェアハウスとして生活したいという要望もあり、現在、住んでみんな家事業を行っているが、期間の設定が短く、また、利用も少ない。</p> <p>トライアルという響きがとてもよく、平のマウンテンスクールや利賀のスターフォレストを利用して、仕事をしてもらいながら、3ヶ月くらいの期間で、“トライアル事業”として検討してみたい。先ほどの、草刈り作業に労力のかかる6月～9月に設定するのもよいかもしれない。</p>	産業経済部 教育委員会 市長政策室
8	男	平	<p>「統合後の小学校の通学路について」</p> <p>現在行われている、週1回(火曜)の放課後子ども教室を、引き続き春光荘で行いたいが、スクールバスの降車場所は自宅の最寄りのバス停でなければならない(途中下車できない)きまりがあるとのことで、大変不都合となる。</p> <p>放課後子ども教室は、子どもたちが地域の伝統芸能を学ぶために大変重要な役割をされており、なんとかして欲しい。</p>	<p>市では、放課後児童保育や児童教室に力を入れたいと考えている。この地域の放課後子ども教室をどこでやるかということを含めて、教育委員会と相談します。</p>	教育委員会
9	男	平	<p>「教育的な観点からの空き家対策について」</p> <p>生れてから大人になるまで、一貫して子どもたちを育てる力をもったこの地域は、道路事情がよいため、通勤にも不便さを感じず、子どもの教育のために移住を考える方には最適な地域だと思う。</p> <p>統合後も子ども数の減少が心配であるが、このことをひとつのブランドとして広くPRして呼び込んで欲しい。</p>	<p>地域力が教育力であるということはとても実感している。</p> <p>春に移ってこられた子どもたちが、一生懸命遊んで、一生懸命勉強している実際の姿を、是非、報道等でクローズアップして発信してもらいたい。</p> <p>Iターン、Uターンの促進の中で、ピーアールして徐々に広まっていくことを期待したい。</p>	教育委員会 市長政策室
10	男	平	<p>「青年団活動について」</p> <p>各行事等の活動について、行政の人との意思の疎通を図るため、意見交換をもっと気軽に行えるように、地元出身の20～30代の職員を行政センターに配置して欲しい。</p>	<p>職員の人事異動は必ず行わなければならないことではあるが、そのようなルールは作りにくいかもしれない。職員の希望を取り入れて対応できるようになるとよいかもしれない。</p> <p>現在、各行政センターには、地元出身の地域支援員が配属されるようになっているため、その職員に何でも相談して欲しい。</p>	総務部
11	男	平	<p>「平出身のマクロスの作者の活用について」</p> <p>超時空要塞マクロスの作者である河森正治は、実は平の出身であり、このことを地域の活性化に生かせないかと。</p>	<p>有名人の活用やNHKの朝の連ドラ等でPRできる機会があれば積極的に行っていきたい。</p> <p>マクロスの作者については、是非、連絡をとりあっていただき、繋がり築きたい。まずは講演会からでも実現できればと考えている。</p>	産業経済部